

第2次安曇野市総合計画後期基本計画 市民ヒアリング報告書

令和4年10月
安曇野市

目 次

1. 移住者（市職員）へのヒアリング	1
■ ヒアリング実施概要	1
■ ヒアリング内容.....	1
■ ヒアリング結果.....	3
2. 移住者（市民）へのヒアリング	6
■ ヒアリング実施概要	6
■ ヒアリング内容.....	6
3. 子育て世帯へのヒアリング（あづみの自然保育）	9
■ ヒアリング実施概要	9
■ ヒアリング内容.....	9
■ ヒアリング結果.....	11
4. 子育て世帯へのヒアリング（共働き世帯）	13
■ ヒアリング実施概要	13
■ ヒアリング内容.....	13
■ ヒアリング結果.....	19
5. 高校生へのアンケート	22
■ ヒアリング実施概要	22
■ アンケート結果.....	22
6. 中学生へのヒアリング	25
■ ヒアリング実施概要	25
■ ヒアリング内容.....	25
■ ヒアリング結果.....	28
7. アウトドア関連事業者へのアンケート調査	30
■ ヒアリング実施概要	30
■ アンケート結果.....	30

1. 移住者（市職員）へのヒアリング

■ ヒアリング実施概要

対象者	県外出身の安曇野市職員 8 名 (主に 20～30 代の若手職員)
実施日	令和 4 年 9 月 16 日 (金)
主なヒアリング事項	・ 移住のきっかけ ・ 安曇野市の魅力 ・ 移住定住の促進についてのご意見

■ ヒアリング内容

① 安曇野市への移住を決めたきっかけ・経緯等

- A さん： 幼少期からキャンプ等で長野県に訪れる機会があった。子育てにあたり自然環境が豊かでかつ、自然保育を推奨している長野県への移住を考えた。趣味の仲間が近くに住んでいることも、安曇野市への移住を決めた理由の 1 つ。
- B さん： 旅行で長野県を訪れた際に、長野県での生活に魅力を感じた。長野県のなかで安曇野市を選んだ理由は明確には無いが、上高地やわさび農園の情景の印象が強く残っていたことが影響したのではないかと感じている。
- B さん： 移住にあたって、一軒家の賃貸物件を希望していたが安曇野市には一軒家の賃貸物件が少なく、賃料が比較的高い。子育て世帯にとっては、賃料が割安な一軒家の賃貸物件が充実していると良いと思う。物件選びには、民間の不動産サイトを活用した。空き家バンクは登録戸数が少なく利用しなかった。
- A さん： 同じく一軒家を希望し、賃貸物件を民間の不動産サイトにて探した。
- C さん： 登山が趣味で、北アルプスが一番よく見え、景色が良い安曇野市への移住を決めた。登山好きの人で、県外から毎週のように安曇野市へ通っている方は少なくないと思う。
- A さん： 公務員として働きたいという希望があったため、経験者枠で職員の募集がある安曇野市への転職を決めた。
- D さん： 妻の出身地が安曇野市近隣であったことが移住のきっかけ。安曇野市は年齢制限のない経験者枠の募集があり、魅力的だった。
- E さん： 都内で勤務していたが、地方への移住を希望していた。親戚がおり、山や景色がきれいな安曇野市への移住を決めた。
- F さん： 夫の職場が安曇野市に近く、結婚を機に安曇野市への移住を決めた。自然環境やきれいな水も安曇野市の魅力だと感じた。
- G さん： 自然が好きで、大学進学時に長野県へ移住した。就職については、勤務地として特別安曇野市を希望していたわけではないが、学生時代に旅行で安曇野市を訪れた際に見た北アルプスの印象が残っており、安曇野市のイメージは良かった。
- H さん： 前職で安曇野市を訪れる機会が複数あった。景色がきれいで印象が良いことから、安曇野市での就職を考えた。安曇野市は経験者枠の募集があったため応募した。安曇野市は、社会人経験者枠の募集が他市町村よりも多い印象がある。

② 移住にあたり不安や障壁だと感じたこと

- Bさん： 特に不安は無かったが、周囲からは知り合いがいないことについて心配された。結果として、今では大学や職場の同期等の友人がいる。
- Cさん： 移住してみて、安曇野市は面倒見が良い人が多い印象を受ける。
- Bさん： 車が無いと生活できないことは、不便だと感じる。
- Aさん： 車は家族で1台では不足感があり、2台目の車を購入した。車の購入は負担が大きい。
- Eさん： 私自身、車の免許を持っていない。都市では電車移動で充分であり、車はあまり必要ないため、免許を取得していない若者は多い。免許を取得したり車を購入したりするための費用負担が大きく、安曇野市への移住についてのハードルになっているのではないかと。
- 市担当： 若い世代でも車を運転しない・出来ない人が増えていることを想定したまちづくり、公共交通の仕組みづくりを考えていきたい。

③ 近所付き合いや区活動等で困ったこと

- Gさん： 消防団には入っている以外に主だった近所付き合いはないが、特に不便を感じていない。
- Bさん： 転入時に区や地域の組合活動について、地域の方から説明を受けたが、複雑でわかりにくく感じた。
- Cさん： 同じような経験をした。事前に市から、区の制度や区・組合の活動について、地域ごとの特徴・活動内容等を具体的に説明してくれると、わかりやすかったと思う。
- Fさん： 伊那市では、区の制度やそれぞれの区の活動について、移住者向けの情報が充実している。移住者の安心感につながるため、受入側として地域ごとの情報を充実させるべきだと思う。
- 市担当： 区の活動等に関する情報の充実について、伊那市等他自治体の事例に学び、今後に活かしていきたい。

④ 若者の転出超過について、その要因や改善点

- Dさん： 子どもに対し、地元に残ったり、帰ってきたりするように強く伝えない親が増えているのではないかと。
- Cさん： 都市部の方が、就職先の選択肢が多いことが影響していると思う。
- Fさん： 都市部では求人が多く、新卒世代を安曇野市へUターンさせることは難しいと感じる。一方で、子育て世代では、小学校進学等の節目で自然豊かな安曇野市への移住を検討する方も多いのではないかと。
- Bさん： 地元の魅力を知る意味で、大学等への進学で市外・県外へ出ること自体は悪いことではないと思う。
- Aさん： 小中学生に対し、地元の仕事やその魅力を知ってもらう機会を設けることも重要なのではないかと。

⑤ 移住前後での安曇野市に対するイメージのギャップ

- Cさん： 野菜が安いかと思っていたが、想像していたより安くなかった。
- Fさん： 店頭に並んでいる県外産の農産物の多さには驚いた。

- Fさん： 天気の良い日が多い。
 Aさん： 朝晩が涼しく、過ごしやすい。
 Aさん： 大きい公園は多いが、小さい子どもが遊べる公園が少ない印象。
 Cさん： 遊具が充実した公園が少ないと感じる。

⑥ 移住・定住を促進するうえで必要だと感じる取組・施策

- Aさん： 移住前に、先輩移住者との交流の場があると嬉しい。実際に移住した方の話を聞くことで不安なく移住出来ると思う。
- Cさん： 移住者同士の交流の場があると良いと思う。
- Aさん： 安曇野市に知人・友人がいない方にとっては、移住者同士の交流は特に必要なのではないかな。
- 市担当： 市の魅力についてのPRだけでなく、移住前後の不安を解消できるような支援を充実させていきたい。
- Bさん： 高齢者になった時の安曇野市での生活を想定すると、運転できなくなった後が心配だと感じる。
- Cさん： 安曇野市のデマンド交通「あづみん」は、車両が大きくなり、乗るのを遠慮してしまう。
- Eさん： コミュニティバスについては、高齢者や障がい者向けをターゲットとしている印象があり、利用することがためられる。ルートは市内の一部エリアだけでなく、市内全域をつなぐルートとするべきではないか。
- Fさん： 大学進学後、安曇野市へ戻ってこない若者が多い一つの要因として、中学高校時代に安曇野市の公共交通の不便さを実感してしまっていることもあるのではないかな。
- Eさん： 運転免許証を取得していない若者は、安曇野市に戻ってくることが難しいと思う。
- 市担当： あづみんは、11月からアプリで呼ぶ機能が追加されるので、是非利用してみて欲しい。
- Gさん： 首都圏在住者のなかで、地方での暮らしを希望する人は一定数いると思う。安曇野市の認知度を上げるためのPRが重要であることは前提として、移住者への支援を充実させ、そのこともアピールしていくべきだと思う。
- Cさん： 現状、支援内容や支援していることについての発信が少ないのではないかな。
- Gさん： 自然環境が良いことはPR材料になると思うが、そこでの暮らしをイメージしてもらえよう、安曇野市での生活についての具体的な情報発信も必要だと感じる。

■ ヒアリング結果

✓ 安曇野市の強みは自然環境や美しい景観

ヒアリングでは、安曇野市の自然環境や美しい景色・景観が、安曇野市への移住を決めるきっかけの1つとなったという意見がみられた。特に、子育て世代は豊かな自然環境のもとでの子育てを望むニーズが相応に高く、豊かな自然環境は安曇野市の魅力として意識されやすいものと推察される。

移住・定住の促進を図る上では、美しい自然環境を保全するとともに、景観の美しさや豊かな自然環境をPRしていくことが求められる。

✓ 観光や登山等のアウトドア・スポーツによる関係人口の創出が重要

移住者から選ばれるためには、安曇野市が広く認知されていることが重要となる。このため、安曇野市との接点をもつ、関係人口を創出することが重要な要素の1つとなるが、ヒアリングでは「親類や友人・知人の存在」や、「旅行」、「登山」が安曇野市との接点を持ったきっかけとして挙げられた。

したがって、安曇野市の自然環境を生かした観光振興を図るとともに、登山等のアウトドア・スポーツ環境を整備することによって、関係人口を更に増加させることが重要である。

✓ **中古物件の充実が必要**

ヒアリングからは、移住者による中古戸建物件の賃借ニーズが高いことがうかがえる一方で、物件の供給量が少ないことが課題としてあげられた。市内に存在する利活用可能な空き家について、所有者の意向確認等を進めることで、市場への供給量および空き家バンク登録物件数の増加を図ることが求められる。

✓ **自家用車取得等にかかる経済的負担が大きい**

地方は都市部と比較して、公共交通の利便性が低い傾向にあるが、ヒアリングでは、地方での生活に必要な自家用車の購入や運転免許の取得にかかる経済的負担が、地方への移住を検討する際の障壁になるといった意見がみられた。移住・定住の促進を図る上では、移住者に対する自家用車取得費の助成などについて検討することも必要であると考えられる。

また、高齢等を理由とする免許返納後の移動手段の確保を、移住者が安曇野市で定住するうえでの懸念事項とする意見もみられたことから、「あづみん」等、公共交通の充実も重要な取組である。

加えて、自家用車や免許を持たない若者の増加など、若者の車離れが進んでいる現状も踏まえ、若い世代も利用しやすい公共交通サービスのあり方を検討することも求められる。

✓ **区制度や地域の活動に関する情報の充実に**

都市部からの移住者にとっては、区などの地域活動について馴染みが無いことも多く、また区や組合活動の重要性・必要性についての認識が地域住民と乖離していることも少なくない。ヒアリングでは、これらに関して移住後に説明を受けた内容の分かりにくさを課題としてあげる意見が見られた。

したがって、移住希望者への情報提供の1つとして、移住前に区などの地域活動について丁寧に説明することが求められる。また、市内でも地域ごとに活動内容や活動頻度に違いがあることから、移住者が希望する居住地に応じて、よりきめ細かい説明が必要である。

✓ **市民・先輩移住者との交流の場の充実が求められる**

移住・定住の促進にあたっては、自然環境等をPRするだけではなく、安曇野市での生活をイメージできるような情報を発信することで、移住希望者が安心して安曇野市へ移住できると感じられるようにすることが重要という意見があった。また、周囲に頼れる人がいることが、移住する上での安心感につながるとの意見もみられた。

これらを踏まえると、移住希望者と先輩移住者との交流の場を設けるなど、移住希望者が安曇野市民と交流し、また関係を構築していくなかで、移住希望者が移住前に抱えている不安を解消するための取組が必要であると考えられる。

✓ **移住者に対するサポート体制についてのPRが必要**

移住・定住を促進する上では、移住者に対する移住前後のサポートおよびサポート体制を充実さ

せ、これを安曇野市の魅力として発信することが重要との意見があげられた。移住者支援の充実度を、安曇野市の魅力とするとともに、発信していくことが必要である。

2. 移住者（市民）へのヒアリング

■ ヒアリング実施概要

対象者	県外から移住した安曇野市民 3名
実施日	令和4年9月2日～10月21日
主なヒアリング事項	・ 移住のきっかけ、魅力 ・ 移住にあたって不安や障壁となった点 ・ 地域との関わり方
ヒアリング対象者	・ Aさん：テレワーカー兼げいじゅつ家 ・ Bさん：夏秋いちご栽培農家 ・ Cさん：ベーカリー経営

■ ヒアリング内容

① 安曇野市への移住を決めたきっかけ・経緯等

- Aさん： 元々は県内市町村出身であったが、芸術活動を通じて安曇野市の移住者と知り合い、安曇野の魅力を知り、暮らしている人の暮らしや生活感に惹かれて移住に至った。白馬村で活動している芸術家とのつながりも後押しする要因となった。仕事は、移住前から就いていた職をテレワークで継続している。
- Bさん： 地縁などはなかったが、夏秋いちごの産地であることを条件に安曇野市への移住に至った。
- Cさん： 自然環境の豊かさに惹かれて。コロナ禍で好きだった旅行ができなくなると不安であったが、四季の移り変わりの美しさのなか、日常が観光・旅行のように暮らせている。

② 移住にあたって不安や障壁となった点

- Aさん： 現在の仕事をどう継続するかについて、これはテレワークで解消することができた。1年弱の間は2拠点居住で冬の生活などは体感しながら準備することができた。知り合いがいたからよいが、いなかったら何を相談したらよいのかもわからなかったと思う。
- Bさん： 夏秋いちご栽培農家としての収入が十分に確保できるかということ。また、生活していくにあたってのインフラや商業施設等の有無。移住後は、特段不便を感じてはいない。
- Cさん： 特になし。

③ 地域との関わり方

- Aさん： 周りの方はやさしいのでありがたいし、こちらも積極的に関わりたいと思っている。ただ、組合所の建設費を払わなければ組合所を使用できないことになっている。費用は高額で払っていないが、地域の方も賃貸などの移住者を想定していなかったことがある。この点は、組合長が機転を利かせて配慮いただいている。
- Bさん： 特に地域コミュニティでの不安などはないが、賃貸住宅に居住しているため、近隣との付き合いがあまりなく、馴染んでいるのかなどがわからない。
区の活動なども賃貸ではなく住居を決めてからとなりそうなので、その後に問題が起こる可能性はあると考えている。

Cさん： 周囲も常会に入っていない方が多く不安であった。ただ、近所の方には非常によくしていただいております、地域の方との関係は良好といえる。

④ 移住前後のギャップ

Aさん： あまりイメージは抱いてなかったが、強いて挙げるならば以外と雪が少ない。場所によっては山が見えない。市街地に近い方の中には車を持たない人もいて、必ずしも車は必須ではない点。

Bさん： これまで住んできた場所と比べると、かなり生活に不自由な場所ではないかと考えていたが、実際生活してみるとほぼ問題なく生活できている。

また、農業に携わるようになり、生活のリズムが朝型に変わり、夜の活動がほとんどなくなったことや、自然のものと触れ合いが増えたため、心にゆとりができています。

Cさん： 想像していたより生活環境が便利であったこと。また、想像していたより景色が絶景であったこと。豊かな食やおいしい水が自家製のパンや珈琲に生かしている。

⑤ 安曇野市で若年層が転出超過となっている要因

Aさん： やはり仕事があるかどうか大きな要因と考える。

また、若年層の場合、市内に住んでいても移動範囲が狭いことから、市の魅力を一部しか知ることができていないのではないかと考える。そのような体験が持てる場があればなおよい。松本は進学する子も多く、店舗の多さなど、歩きでも魅力などわかりやすい点があるので、松本に住む人も多いと思われる。

アウトドア・スポーツを推進しているとのことだが、地域の人、特に若年層が楽しめるアクティビティを用意することも解消する手段の1つになるのでは。

Bさん： 長野県内や中信地区に、魅力のある学校や就職先などが存在していないのではないかと考える。また、メディアなどによって安曇野にはない文化や環境が拡散されやすい時代となったため、都会への憧れやこれまで経験したことのないものに触れたいという思いが強くなっているのではないかと考える。インフラの整備により首都圏との往来がしやすくなってきているのも要因の1つではないか。

Cさん： 特になし。

⑥ 安曇野市が移住・定住を推進するうえで必要と思う取組

Aさん： おためし住宅は1週間とのことだが、観光にちょうどよい期間でもある。ただ場所を提供するだけでなく、スーパーや病院などがどこにあるなど、リアルな生活を想像できる提供する仕掛けがあればよいのではないかと考える。

また、農家さんなど暮らしている人と接する機会を持てれば関係人口の創出、暮らしを想像させるきっかけになるのではないかと考える。移住者のコミュニケーションの場の創出も必要になる。

文化芸術中核都市を目指しているとのこと、芸術家などに選んでもらうためにも、作家が出店できるイベントや展示場所の充実が望ましい。市役所など普段人が出入りする場所で展示できればありがたい。地域の人へのアプローチが難しいと感じている。

Bさん： 日常の移動手段が、自家用車や自転車などに限られてしまうため、外出の際の行動が制

限されることがある。バスや電車などの移動手段がもう少し使えるようになると、より生活しやすくなると考える。

Cさん： 店にはリモートワークで仕事をしているお客さんがたくさん来ている。別荘地を利用したのサテライトキャンパスやガラスミュージアムを利用したの美大のキャンパス誘致など、魅力的な住まい方があればよい。

3. 子育て世帯へのヒアリング（あづみの自然保育）

■ ヒアリング実施概要

対象者	明科北認定こども園（※）に通う幼児の保護者 4 名 （特化型 1 名、普及型 3 名）
実施日	令和 4 年 9 月 16 日（金）
主なヒアリング事項	・ あづみの自然保育の魅力 ・ あづみの自然保育のブランド化について

※ 明科北認定こども園は、長野県が推進する自然環境や地域資源を保育に取り入れる「信州やまほいく」の「普及型」の認定を受けており、園独自に「普及型」（他のプログラムと合わせて、自然保育にも積極的に取り組む活動）と「特化型」（質、量ともに自然保育に重点を置いて取り組む活動）の 2 コースの保育サービスを提供している。

※ 市は、明科北認定こども園の保育業務を令和 4 年度より NPO 法人「響育の山里 くじら雲」に委託。NPO 法人「響育の山里 くじら雲」が運営する「響育の山里 くじら雲」の園児は、令和 3 年度より引継ぎ保育として明科北認定こども園に合流。

■ ヒアリング内容

① 明科北認定こども園（くじら雲）に入園したきっかけ

- A さん： 雑誌をみて野外保育に興味を持ったことから入園した。
- B さん： 自宅に近い地域の施設ということで入園した。
- C さん： 自然保育に力を入れており、また、自宅から近いこともあり入園した。
- D さん： 自然保育に関する書籍を読み、自然保育に興味・関心があったことから入園した。

② 自然保育を通じて良かったと感じる点

- A さん： 日々の生活が自然のなかにあり、生きる力・生活に必要な衣食住に関する力が備わっていると思う。食べ物、好き嫌いなく何でも食べる。
- D さん： 自然のなかで少人数での保育のため、一人ひとりの主体性を重視して育てられる。新しいことに対して、自分で考えて行動できる。
- B さん： 自然の中で様々なことを教えていただき、楽しく過ごせていると思う。学年関係なく縦割りの少人数グループでの保育のメリットが大きいと感じている。
- D さん： 縦割り保育では、年長さんが小さい子たちが出来ないことをサポートし、また、年少さんが年長さんの行動をみて学ぶことを通して、お互いが成長できる。
- C さん： 昔に比べて近所のつながりが希薄なので、縦割りを通して学年関係なく交流出来ることは貴重な体験だと思う。
- C さん： 少人数での保育のため、一人ひとりをしっかり見てくれていると思う。自然のなかでの保育を通して、自然へ興味を持っていることや心の成長を感じる。
- D さん： 自然のなかで、木の種類や葉の色のバリエーションを知ること等を通して、ものごとを捉える力や見る力、観察力等が養われていると思う。
- 市担当： 今お話しいただいたような自然保育のメリットは、まだ広く知られていないと感じる。PR を強化していきたい。

③ 自然保育についての要望

- Dさん： 園庭について、自然のなかで色々な生き物がいる状態を作り出して欲しい。
- Aさん： 自然を感じられる園庭にして欲しい。収穫体験や畑作りは、体験ではなく生活の一部として実施できるとより魅力的になると思う。自然体験交流センター「せせらぎ」など、市の公共施設を有効活用しても良いと思う。
- Dさん： 園バスを用意し活用することで、園児が活動できるフィールドを広げて欲しい。
- Cさん： 園バスは必要だと思う。市として導入すれば、明科北だけでなく、他の園でも活用できると思う。
- Dさん： 運営法人だけでなく、市からも働きかけることにより、地域住民の理解を得ることで、子どもたちの活動のフィールドを確保し、広げて欲しい。
- Bさん： 「あづみの自然保育」のブランド化について、ブランド化する内容・中身が曖昧ではないか。「あづみの自然保育」とは、何を指すものなのか、より明確にするべきではないか。

④ 「あづみの自然保育」のブランド化について

- Aさん： 「あづみの自然保育」という言葉を始めて聞いた。
- 市担当： 長野県では「信州型自然保育（やまほいく）」しており、安曇野市でも「あづみの自然保育」のブランド化を目指して取組を進めている。あづみの自然保育のブランド化により、子育て世帯の移住・定住も強化していきたい。
- Dさん： ブランド化に力を入れることは良いが、中身を充実させることが重要ではないか。また、子育て世帯にとって、移住は大きな決断であるため、自然保育のメリットについて科学的な根拠があると良いのではないか。
- 市担当： 自然保育のメリットについての科学的な根拠も重要だが、保護者の皆さまが自然保育の効果を実感していただいているということ自体が一種の根拠にもなると考えている。うまくPRに生かしていきたい。
- Bさん： 移住・定住のために、市外の方にPRするのも大事だが、地域の方・地域の保護者への説明・PRが不足していると感じる。
- Aさん： ブランド化する内容を明確にした方が良い。保育者を含め、自然保育の内容が十分に周知されていないと思う。
- 市担当： 保育者から保護者に対し、自然保育の内容やメリットについて説明するなど、コミュニケーションを強化する必要があると感じる。
- Cさん： 地域住民との交流等を通して、地域の方に自然保育やその魅力について知ってもらう必要があると思う。
- Dさん： まずは地域内へのPRが重要なのではないか。
- Bさん： 地域の方に理解され、愛されるようにならないとブランド化は難しいと思う。
- Cさん： 「あづみの自然保育」と「信州型自然保育」との違いや、信州型自然保育における「特化型」、「普及型」の違いなど、分かりやすく発信すべきだと思う。現状では、元々自然保育に興味のある層にしかPR出来てないと思う。
- 市担当： 地域の方にも知ってもらえるよう、わかりやすく情報発信していきたいと思う。

■ ヒアリング結果

✓ 保護者の多くが自然保育の効果を実感

ヒアリングからは、自然保育の効果として主体性、観察力など、生きる力が育まれていると実感しているとの意見が多くみられた。

※ヒアリング対象者が明科北認定こども園の保護者のみであることに留意

✓ 「あづみの自然保育」のブランド化にあたっては内容の充実および明確化が必要

「あづみの自然保育」のブランド化にあたり、情報発信の強化とともに、「あづみの自然保育」の内容の充実や「あづみの自然保育」が目指すものについて明確化することが必要との意見がみられた。

✓ 「あづみの自然保育」について市民に知られ、理解されることが重要

移住を促進するための市外・県外へのPRも重要だが、まずは「あづみの自然保育」が地域に広く知られ、共感を得ることで地域の保護者に選ばれるように、市内へのPRを強化すべきとの意見が聞かれた。

4. 子育て世帯へのヒアリング（共働き世帯）

■ ヒアリング実施概要

対象者	市内認定こども園に子どもを通わせている 共働き世帯の保護者（母親）5名
実施日	令和4年10月12日（水）
主なヒアリング事項	・ 安曇野市の子育て環境の魅力 ・ 安曇野市の子育て環境に関するご意見

■ ヒアリング内容

① 子育て世帯にとっての安曇野市の魅力（子育て世帯の転入が多い理由）

（5名全員が出産後に安曇野市へ転入）

- Aさん： 夫が転勤族で県内をあちこち点々としていたが、子どもが保育園に入るタイミングで安曇野市に来了。他に比べて水がきれい、空気がきれい、自然が豊か。夫が松本に通勤しているが、松本市は家賃が高いイメージがあった。その点、安曇野市は松本市に近く、住むにはちょうどよかったし、夫の実家が安曇野市だった。
- Bさん： 自然が豊かな中で子育てをしたかった。もともと松本出身だが、社会人になって県外に出た。安曇野は土地が安かった。家を建てたかった。希望するような物件が安曇野市は多かった。すでに移住者が多くて地元の人ばかりではないため部外者感がない。地域のコミュニティに入れてもらいやすい雰囲気があった。
- Cさん： 地元が安曇野市だが、進学・就職は市外で1人目を市外で出産した。もともと子どもを育てるなら安曇野市がいいと思っていた。自然豊かで自由に走り回れるところがいい。実家に近くて支援も受けられる場所ということで帰ってきた。
- Dさん： 自然が豊か。通勤圏内であることは必須。東京から移住した友人の話では、水と空気がきれいで子どものアトピーが治る場合もあってとてもよいと聞いている。それから移住者が結構いるので、そこからの情報を色々と得やすいと聞いている。
- Eさん： 池田町出身。池田町に住む選択もあったが、安曇野市はお店もしっかりあり、都会すぎず田舎すぎないし、道路も混まない。通勤も松本方面にも大町方面にも行きやすい。ちょうど中間地点だったので選んだ。
- 市担当： 安曇野市への移住後、地元の人との付き合いを含め困ったことはないか。
- Eさん： コロナなので、そんなに近所付き合いはない。引越したのがコロナ後だったので、近所とも挨拶程度の関係しかない。長く住んでいる方とはあまりコミュニケーションはない。同じ時期に引越してきた人たちとは、一緒に子どもを遊ばせたりする。
- Bさん： 市内への移住後、更に引越しをしたが、最初に住んだ地域は、地元の人との関わりがある場所で区のPTAをやったりした。ずっと住んでいる高齢者世代と私たち世代の関わりがあり、話が聞けてよかった。今住んでいる別荘地に近い所は、やはり移住者が多いので、関わることを望んでない感じがする。地域によって違うと感じる。

② 安曇野市における保育サービスの供給量は充分だと感じますか。

- Cさん： 上の子が年中、下の子が2歳児クラスで保育園に入ろうとした時、兄と同じ保育園に未満の下の子が入れなかった。今年から同じ保育園に通っている。去年だけ1年間違う園に通っていた。
- Eさん： 3人子どもがいるが、一番下の子だけ違う保育園に通っている。15分以上離れている保育園なので、送迎が大変。送迎に時間がかかり、朝も早く出なくてはならない。入る保育園が決まった状態で連絡が来るので、できれば決まる前に一度連絡が欲しいと思った。保育園が変わるかもしれないがどうするかと連絡がほしかった。認定の前に連絡が来れば、預けずにもう1年待つという選択もできた。
- Dさん： 安曇野市では令和4年4月に待機児童が0（ゼロ）になったということだが、これは、とりあえず園に入れたということ。希望とマッチせずに、園に通っている人も大勢いると思う。こうした問題の解消も非常に重要だと思う。
- Eさん： 一番下の子は第5希望の保育園に入った。穂高に住んでいるが、豊科の園まで通っている。仕事もしているので、延長保育もどちらかを5時半、どちらかを6時までとしたりしている。そういう家庭が多い。1号認定の方では、14時半に1人迎えに行き、15時にもう一人迎えに行く人もいる。
- Cさん： 職場でも本当は復帰したかったけれど、希望の保育園に子どもを入れられなくて、職場に復帰できずに退職した人もいると聞いた。
- Bさん： 安曇野市では、潜在的待機児童数は0（ゼロ）なのか。
- 市担当： 潜在的待機児童は、令和4年4月時点で0（ゼロ）にはなっていない。
- Eさん： 10月の時点で4月に子どもを保育園に入れられるかもしれないという状況で雇ってくれる会社はまずない。企業は、保育先が決まっていないと採用しづらい。入園が決まっていないと仕事が決まらないのに、未満児については仕事が決まっていないと入園させられない。入園希望を出せずに諦めている人もたくさんいる。
- Dさん： そういう人は、潜在的待機児童にすらカウントされていない。
- Eさん： 児童館で愚痴を言っているかもしれない。
- Dさん： 児童館にはそういう人が沢山見つけられると思う。
- 市担当： 潜在的な待機児童にも入っていない人が相当数いるという認識か。
- Eさん： そうだと思う。働きたいが、入園希望を出すことすら諦めざるを得ず、預け先がない。そのような状況のなか、一時保育もハードルが高い。一時保育は働いた分の金額を払わなければいけない。収支はゼロ。
- 市担当： 一時保育の経済的負担についてはどうか。
- Eさん： 3歳未満だと高い。1日3,000円くらいかかる。
- 市担当： いままでの話を総合して、保育サービスの供給量についてどう考えるか。
- Dさん： 量という表現だと難しい。
- Eさん： 各家庭に合ったニーズに合わせた保育サービスというのは足りてない。

③ 安曇野市の子育て環境についての満足度はいかがですか。

- D さん： 私個人としてはどちらでもないと考えている。また、数としては少ないかもしれないが、ひとり親家庭であるとか苦しい思いをしている人達がきつといるので、そのような方への支援の充実が必要だと思う。数の少ない、弱い立場の人への支援を充実させるべきだと思う。
- E さん： 子育てに関連する不満というのは、「子育て」についての満足度としてではなく、例えば「労働・雇用」、「教育」などの不満としてあらわれてくるものだと思う。「子育て」に関する満足度だけに捉われては意味がないと思う。子育てする人の、子育て以外の項目についての満足度をしっかりと把握する必要があると思う。
- B さん： 安曇野市で里帰り出産をするなら必ず病院を決めてから来なさいと言われた。分娩できる病院を安曇野市内で確保しておくことは移住してくる人とか里帰り出産を考えている人にとって大事だと感じる。満足度につながると思う。
- E さん： 安曇野市で分娩できる所は穂高病院だけだったと記憶している。分娩数が上がっていると聞いた。

④ 子育て世帯への支援として、具体的にどのような支援が必要だと感じますか。

- E さん： 給食費の無償化はどうか。
- 市担当： 現在、一部条件を満たした家庭では実施している。
- B さん： 3人目は無償だったと思う。同時に園に預けてなくても3人目の子どもなら無償。
- E さん： もし出来るのなら全員無償にできればいいと思う。全員無償化としている自治体は少ない印象。
- A さん： 無償化によって栄養面のバランスが崩れたりしないようにしてほしいが、無償化はありがたい。
- E さん： 3歳以上は保育料が無料になったが、給食費はとられており、がっかりした。全部無料になると思っていた。給食費の経済的負担は小さくない。2人目以降割引でもいいのでぜひお願いしたい。
- A さん： 経済的に大変という人もいる。
- E さん： 3人目が欲しいが、2人も保育園に入れていると既に経済的負担が大きく、ためらう人もいる。ぜひやって欲しいと個人的に思っている。
- B さん： 就労との両立支援と言うと、どうしても母親だけの話になっている。お父さんが出てこない。送迎も本当にお母さんが多い。両親で育てる体制づくりができるといい。
- A さん： 男性は会社の圧というか、見えない職場の雰囲気があるかもしれない。なかなか休みたくても休めないというのもある。立場もわかるけど、協力はしてほしい。そうなると会社の理解が必要。
- D さん： 啓蒙活動的な育児教室みたいなものがあればいいのでは。
- E さん： パパの家事育児教室があればいい。
- D さん： パパの意識改革みたいな。私たちの園では3分の1くらいはお父さんが送迎をしている。最近増えてきた気がする。若い人が多い。あとはおじいちゃん。
- C さん： おじいちゃん、おばあちゃんのお迎えは結構多い。
- D さん： 少しずつそうやって意識が変わっていけば、お母さんたちも子育てしやすいのかなとい

う気はする。

- E さん： 子どもが病気の時は、お母さんが仕事を休む。お父さんは休めないのか、休まないのか分からないが、休まない。
- D さん： 1ヶ月くらい前から計画されていた通院予定だったらお父さんは休んでくれるが、突発的な病気の時のお迎えとかは私が行くことが多い。
- E さん： 男性の休暇を促すプロモーションに市として取り組んで欲しい。お父さんも休みましようと言ってほしい。
- A さん： 私は夫の親と同居だが、夫の親に子どもが病気の時に見てほしいとはなかなか言いにくい。まずは自分が仕事を休むという立場になってしまう。自分の親なら頼みやすいが、夫の親には言えない。核家族でなくても大変な部分はある。
- E さん： 病気の子どもを預けられるサービスがあればいい。病児保育は使ったことがない。
- D さん： 病児保育はとてもハードルが高いと言っている人がいる。登録しても当日飛び込みはできず、事前に予約が必要。手続きがすごく面倒であまり使わないという話があった。
- B さん： 預かる側からしたら、ぐったりしたまま連れてこられても困るのだと思う。
- C さん： 急に預けたい時にこそ必要だと思う。具合が悪くなった次の日以降なら仕事を調節して休むこともしやすい。
- E さん： 長時間保育を長くしてほしいというのもあると思う。

⑤ 子どもを預けられる施設として、どのような施設を増加させることが必要だと感じますか。

- D さん： 知人からの意見だが、求職活動時に6ヶ月なら園に預けられるがそれで決まらないうと退園になってしまい、子どもがいながら求職活動も続けなければいけないという結構つらい状況になるお母さんもいるとのこと。ハローワークなどに託児所や子連れで行けるスペース（キッズスペースなど）があれば、園の支援を受けなくても求職活動ができてとても助かるという意見を聞いている。松本市はハローワークにキッズスペースがあるのでそこに行くことも考えたら遠くて諦めたということだった。
- E さん： 一時保育やファミリーサポート以外で子どもを預けられるサービスはあるのか。
- 市担当： 安曇野市内にはない。
- 市担当： 何歳くらいの子どもを預けられたら良いと考えているか。
- E さん： 2歳児未満くらい。上の子の通院に下の子を連れていかなければいけない時等、預けられる施設があるといい。祖父母が近くにいない人は特に必要。
- C さん： 一時預かりは費用負担が大きい。
- E さん： 一時保育は定員が少ない印象。定員が5人程度で1ヶ月前に予約しなければならなかったと思う。突発で預けられる施設がほしい。
- C さん： 三郷の中でも一時保育をやっているのは1ヶ所しかないと思う。
- E さん： それも登録の面談を先生として、承認を得ないと預けられない。
- D さん： 預ける際に持っていないといけない荷物もすごい多い。
- 市担当： 利用できるサービスも無くはないが、事前登録・予約やコストの面で利用しにくいということか。
- E さん： 一時保育だけではなく、市役所などを使って預けられる施設をつくってほしい。
- 市担当： ファミリーサポートはどうか。

- D さん： ファミリーサポートは登録しているが、相性が合う担当の方と出会わない限り利用しづらい。私の友人が使ったことがあるが、やはり担当についた方と相性がよくなかった。また同じ人が来たら嫌だから使わなくなってしまったというのもある。
- E さん： ファミリーサポートも自宅ではなくて、外で見てほしい。1 日ではなく、買い物に行く 1、2 時間だけでいい。ファミリーサポートはハードルが高い。
- D さん： 塩尻市に住んでいた時、出産時に入院するので園に送迎のみしてもらうためにファミリーサポートを利用した。利用したら、保育園の方とファミサポの方の顔がきいていて、連携がとれていたのよかった。安曇野市に来てからは使ったことがない。
- A さん： 例えば夜間に仕事をしている人で急に夜勤が入った場合、特にひとり親世帯は子どもを預ける場所がない。このような時ファミリーサポートは使えるのか。
- 市担当： 利用可能時間は 8 時～18 時で、夜間の想定はない。
- E さん： 電話一本で預かってくれるようなところがあればいいと思う。
- A さん： 子ども一人で留守番というのは少し厳しい。
- E さん： ひとり親の方は、急に夜中に子どもが具合悪くなって救急に連れていかなければいけない時どうしているのか。短時間でリフレッシュしたい時間に預かってくれる施設がない。東京から来た人は特に感じているとのことだ。
- 市担当： 東京にはそういう施設があるのか。
- E さん： あると思う。名古屋のほうにそういうお店がある。美容室に託児所がついているという話も聞いたことがある。
- B さん： 家具屋さんにも託児所がついているのを見たことがある。
- E さん： 保育士さんがついているケースもある。
- A さん： 飯田市にいた時は、保育士さんがいる美容院を探して利用していた。
- D さん： 塩尻市にはえんぱーくがあり、便利だった。
- E さん： えんぱーくは安曇野市からも行く。児童館とは違い、テーマパークみたい。
- 市担当： 安曇野市にも同じような施設がほしいか。
- D さん： あるといいと思う。雨が降ると、子どもを連れてどこに行こうか悩む。
- A さん： 男の子はずっと座ってられない。
- E さん： トランポリンやボールプールがあるだけでもいい。
- A さん： 母親が買い物をしている間に、父親と子どもが遊べるような感じがいい。楽だと思う。
- A さん： スーパーはたくさんできたが、子どもが遊ぶ場が少ない。
- 市担当： えんぱーくの一番の魅力はなにか。
- D さん： 広い遊び場があり、一か所で色々済ませられる。例えば、住民票を取りに行く時には、えんぱーくにいき、そのついでに子どもを遊ばせられる。ちょっとした用事の時に子どもを連れだしていくのが結構億劫。えんぱーくに行くと言うと、子どもも素直について来てくれる。
- E さん： 大人の用事も済ませて、子どもも満足して帰れる施設。
- 市担当： えんぱーくは図書館のイメージしかなかった。子どもの施設もあるのか。
- D さん： 道を渡ったところに遊び場がある。
- E さん： 年間料金を払えば使い放題の施設がある。
- D さん： 図書館のとなりの棟に遊び場、本屋、服屋、食品、ドラッグストアがある。

⑥ 語学学習・体験教室等、教育・保育施設等で充実させてほしい支援サービスはありますか。

E さん： 私は別になくてもいい。

B さん： リトミックや体操を園でやってくれるとありがたいという話を聞いた。何かちょっとあると嬉しい。

D さん： 習い事は余裕が無すぎてできない。

E さん： 習い事の送迎ができない。特に平日は無理。やりたいけどできないという方が結構いると思う。

A さん： うちでは習い事をさせているが送迎が大変。週3で兄弟違う曜日で英語に通っている。保育園で友達と遊び感覚で英語を習ってもらい、そのまま小学校に上がった時にスムーズに英語の授業に反映できるようになるとありがたい。

E さん： 自分の仕事で疲れているのに、送迎もとなると疲れる。

A さん： 送迎の時間に合わせて自分の仕事も早く切り上げることになる。残業もできない。

B さん： 市内に劇をやってくれる団体があるが、園それぞれでお願いしている。これについて、もう少し市から予算がついたらいいと思った。それからスポーツも文化も自分の家で触れられる家庭もあればそうでない家庭もあり様々なので、園の活動としてもっと増えるといい。

⑦ 市の各種支援事業について、利用しやすいものにするにはどのような取組が必要だと思いますか。

B さん： 先ほどのえんぱーくの話がここにつながっている。相談が終わった後に子どもを連れてスーパーに寄ったりするのは大変。サービスを受けるためにはサービスを受けられる場所に子どもを一緒に連れて行かなければならないのが意外と大変。一つの場所で買い物やサービスを完結できるようにしてもらえれば使うのかと思う。児童館にもそういう相談窓口があるがハードルが高い。

D さん： 相談窓口の類は、平日の昼とかしかやっていない。

B さん： 相談もできてスーパーで買い物もできるなどまとめて終われたり、どこかに行くついでに気軽に相談ができたりすれば、もっと利用するかもしれない。

D さん： ついでにちょこっとできるほうがいい。現状だとわざわざ行かなければいけないものが多い。平日の昼に仕事がある人は休まなければならない。圧倒的に時間がない中でここには費やせない。

E さん： 市のHPでの情報発信は、たぶん見ないお母さんのほうが多い。利用してほしいなら直接未就園児におたよりを配布するなどしたほうがいい。

A さん： LINEとかで友だち登録していたら、そっちのほうが気軽に行きやすいと思う。

D さん： メールみたいに情報が一斉に配信されるといいのかもしれない。

市担当： 自分で情報をチェックし、事前に予定に組み込んでまで行くことはできないということか。

C さん： 自分で情報を探すことがなかなかできない。

E さん： 子育てだけで必死。

市担当： 子育てアプリができたので、情報を載せるようにしたい。

D さん： コドモンやオクレンジャーで情報を送って頂きたい。たぶん使いたい人達もたくさんいると思う。

- E さん： 母子・子育て相談窓口というのはどこでやっているのか。
- 市担当： 集約したものは市役所ある。また、児童館で相談が受けられるように体制をととのえている。些細な相談も含めて窓口では専門の人が対応している。
- E さん： それは知らなかった。
- D さん： なかなか行政の情報に出会えない。市議会だよりを見ればいいのか、HP を見ても迷子になってしまう。
- B さん： 電話番号を知っていたとしても、相談のために電話をかけるまでに抵抗がある。
- E さん： こんなことで相談していいのかなと考えてしまう。
- D さん： 保健師さんの当りはずれがある。苦手なタイプの人に当たったらどうしようと思う。安曇野市はゆったり構えてくれる保健師さんが多いが、他市にいた時 2 人目だからと決めつけられてすごくつらい思いをしたトラウマがある。
- E さん： こういうところに相談するのは結構勇気がいること。
- C さん： どうしようかなと思っているうちにどっちでもよくなってしまう。
- E さん： もっと気軽に相談できる場所があればいい。
- A さん： 兄弟で違いがあるから相談したいが、2 人目だから、子育ての経験があるから、何か自分で考え出さないといけないと思ってしまう。
- E さん： 発達障害やグレーの子どもたちの相談窓口は多いが、普通の子どもでも悶々とする時期がある。そういう時の対処法を知りたいというお母さんが多い。子育ての講演会などを託児付きでやってほしい。困ったときに知りたい情報がないというのが一番不安。市で食育とかはすごいやってくれているが、状況に応じての対処法を相談できる窓口があるといい。学習会やペアレントトレーニングなど。
- D さん： 託児付きはポイントだと思う。
- E さん： 日曜の昼間に講演会を開催するのも良いと思う。夜にやってもいいが、お父さんが夜勤でいないという家庭もあるので。
- D さん： 面倒見てくれる人がいて子どもを預けて講演会に聞きに行ける人は恵まれている。預けられなくてどうにかしたい層を引き込まないと満足感は得られない。

■ ヒアリング結果

✓ 安曇野市の豊かな自然環境が子育てに適していると考え保護者が多い

安曇野市は子育て世帯の転入が多いことが特徴であるが、ヒアリングからは、この背景には豊かな自然環境のもとで子育てをしたいというニーズが一定程度あることがうかがえる。

また、松本市への通勤圏内でありながら、松本市や塩尻市に比べて土地取得費や賃料が安いことも魅力の一つとして挙げられた。

加えて子育て世帯の転入が多いこと自体が、安曇野市への転入を考えるうえでの安心感につながり、転入を考える要因になっているという意見もみられた。

✓ 「(潜在的) 待機児童数」では計測出来ないミスマッチの解消が求められる

ヒアリングからは、「待機児童数」や「潜在的待機児童数」として数値に表れない、保育に関する需要と供給のミスマッチが相応に生じていることが推察される。具体的には、希望していない園にやむなく通うケースや、特に未満児について、入園を希望すること自体をあきらめるケースが挙げられた。前者の場合には兄弟姉妹が別の園となることでの送迎負担の増大等につながり、後者の場

合には就業機会が得られにくくなるといった意見がみられた。

✓ **子育てに関する満足度の向上のためには総合的な支援が必要**

安曇野市の出産・子育て環境の満足度向上を目指すにあたっては、出産・子育て支援に留まらず、保育・学校教育や就労・雇用、男女共同参画、医療体制等、関連する幅広い分野について総合的な支援を充実させる必要があるとの意見があった。

子育て世帯に占める共働き世帯の割合が増加しているなかで、特に就労・雇用に関連して、企業や家庭に対し、父親やその他家族も積極的に子育てに関与することが出来るような社会づくりのための啓発を求める意見が目立った。

✓ **一時預かり・一時保育の利便性向上やサービス多様化が肝要**

病児保育を含め、各家庭の都合にあわせて一時的に子どもを預けることが出来る施設・サービスの充実を望む意見が多くみられた。市では一時保育やファミリーサポートを提供しているが、事前登録・事前予約が必要であることや夜間の利用が出来ない等の理由から、上記のニーズを十分に満たせていないとの声が目立った。また、市外では、都市部を中心に美容室や小売店、商業施設等において民間企業が提供する託児サービスが充実しているとの意見もあり、民間との連携を含め、サービスの利便性向上や多様化を図る必要があるものと考えられる。

✓ **各種相談窓口やセミナー等は保護者が利用しやすい工夫を**

子育てに関する相談窓口やセミナー・講演の開催の情報について、子育て・家事・仕事に追われる状況のなか、市のHPを確認するといった能動的な情報取得は困難であるとの意見があり、これらを必要とする対象に情報が行きわたっていない可能性が想定される。子育てアプリ等による情報発信等の強化が求められる。

また、相談窓口の利用にあたっては、子どもを連れて外出すること自体が負担であることや、平日は仕事を休みにくいことを踏まえ、休日に買い物に行くついでに利用できる等、利用しやすい場所・日時での開催についても検討するべきとの意見があった。セミナー・講演会の開催については、家族に育児をお願いしやすい休日の開催を望む意見も見られた。相談窓口やセミナー・講演会のいずれにおいても、子どもを気にせず利用できるよう、託児付きを求める意見も目立った。

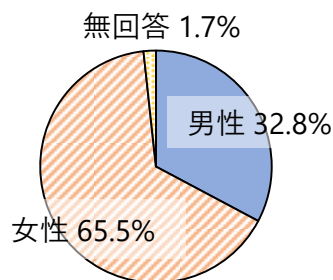
5. 高校生へのアンケート

■ ヒアリング実施概要

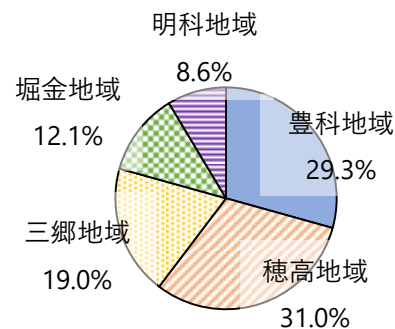
対象者	市内在住の高校生
実施期間	令和4年9月1日～9月21日
調査方法	郵送による発送 WEB による回答
回収状況	送付数 892 回収数 58 回答率 6.5%

■ アンケート結果

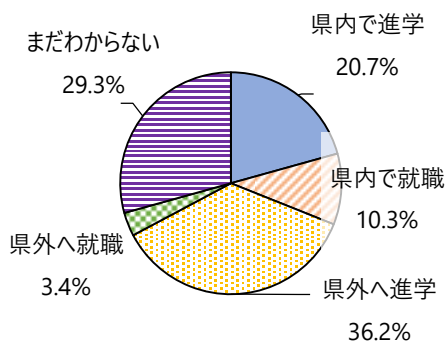
① 性別



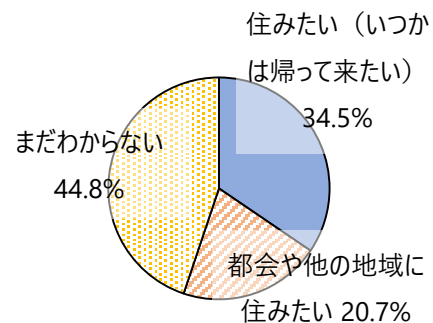
② 住んでいる地域



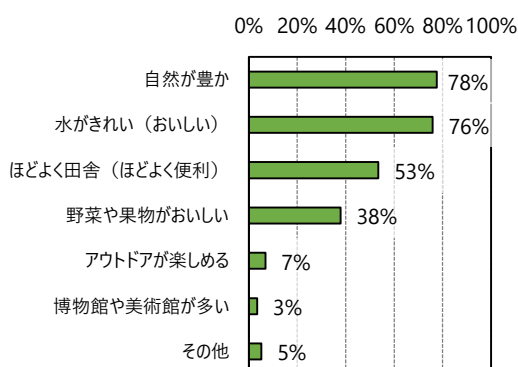
③ 高校を卒業したら？（1つに○）



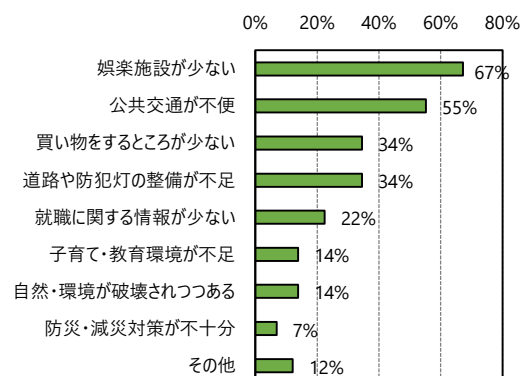
④ 将来、安曇野市に住みたい？（1つに○）



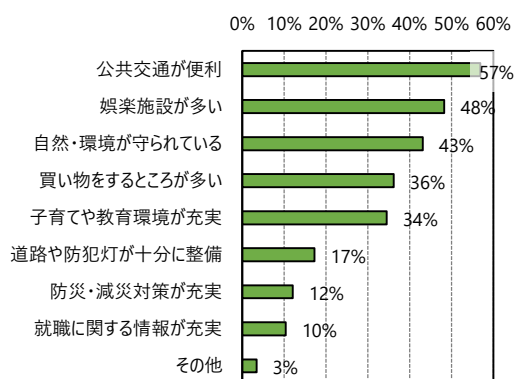
⑤ 安曇野市の魅力は？（3つまで○）



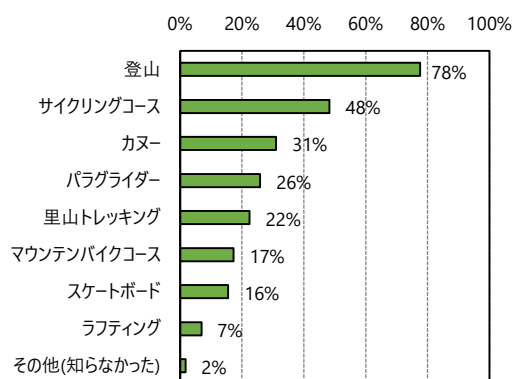
⑥ 安曇野市のよくないところは？（該当全てに○）



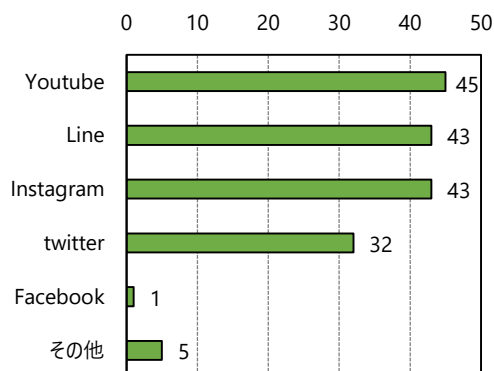
⑦ 戻りたいまちにするには？（3つまで○）



⑧ 市内でできるアウトドア・スポーツの認知度



⑨ よく利用する SNS（アプリ）は？（該当全て○）



⑩ 移住先として選んでもらうため、おススメしたい安曇野市のイチオシは？（自由回答）

- ・ 自然
- ・ 田舎過ぎず都会過ぎないところ。
- ・ 自然豊かなうえに松本の市街地にも比較的近いため、生活がしやすい。
- ・ 公園が多く、広い図書館や新しい体育館があるなど、市の施設が充実していてとてもいい。"
- ・ 蕎麦や大王わさび農場など
- ・ 自然
- ・ 自然がきれい！！
- ・ 事件災害が少ない安心安全な生活
- ・ 自然豊かで静かなので子どもから大人まで暮らしやすい環境"
- ・ やっぱり景色がいいところですね。山が綺麗です。
- ・ わさびソフトとわさびコロケ
- ・ お水が美味しいことと、空気がきれいなところです。
- ・ 自然がいっぱいある
- ・ 見渡す限り山がある
- ・ のどかである
- ・ 水が美味しい(水道水が美味しい)
- ・ 台風による災害がほとんど無い
- ・ 地元のパン屋さん
- ・ "大王わさび農場
- ・ 自転車広場

- ・ 景色
- ・ わさびやりんごなど生産量の多い食材をより多く活用した料理
- ・ 安曇野は緑が綺麗だと思うので
- ・ 自然豊かが 1 番！
- ・ そば
- ・ 烏川溪谷緑地

6. 中学生へのヒアリング

■ ヒアリング実施概要

対象者	市内在住の中学生等 5 名
実施日	令和 4 年 10 月 10 日（月）
主なヒアリング事項	・ 安曇野市の良いところ・魅力 ・ 安曇野市を「もどりたいまち」にするために必要なこと

■ ヒアリング内容

① 高校卒業後の進路

- A さん： 住み慣れた安曇野市か安曇野市から近い場所に住みたいので、長野県内への進学を検討している。
- B さん： 進学を希望する大学が長野県内にあり、長野県内への進学を考えている。
- C さん： 長野県外へ進学したい。長野県や安曇野市に居たくないというよりは、一度県外に出て視野を広げたいと考えている。
- D さん： 一度県外に出て視野を広げ、最終的には県内に戻ってきたいと考えているが、まだわからない。

② 将来安曇野市に住みたいか

- A さん： 都市的な要素もあるためそれほど不便ではなく、自然があり、落ち着いて住みやすいため、安曇野市に住みたいと考えている。
- E さん： 将来就職したときのことを考えると、現在住んでいる明科地域ではスーパー等が少なかったり、バスの利便性が低かったりするため、長野市や松本市等、交通の便が良いところに住みたい。
- B さん： 明科地域に住んでいるが、塾や買い物際の移動が不便で、家族に車を出してもらえないといけない。将来は、公共交通の利便性が高い松本市等に住みたい。
- C さん： 進路もまだ決まっていないからまだわからない。安曇野市にもいいところがあるから、いつかは戻ってきたいと思うが、仕事の都合で松本や便利なところに行くかもしれない。
- C さん： 公共交通について言えば、現在穂高地域の自宅から毎日松本へ電車で通っている。塩尻市から通う友達もいるが、塩尻方面は安曇野方面からの電車の 2 倍以上あるように感じる。安曇野市方面からは 1 時間に 1 本程度しかないのが不便に感じる。
- D さん： いつかは安曇野市に戻ってきたいと思っはいるが、都会での暮らしと比べてしまうと安曇野市には戻ってこないかなと思ってしまう。
- D さん： 公共交通に関して言えば、かつて堀金地域に住んでいたが、安曇野市で唯一 JR が通っておらず、とても不便だった。

③ 安曇野市の良いところ・魅力

- A さん： ほど良く田舎で、自然が豊かなところ。朝にみる北アルプスの景色がきれいだと思う。
- C さん： 景色が綺麗なところ。ジョギングをするが、大王わさび農園あたりの景色が良い。ま

た、自転車道が整備されていて良いと感じる。松本市の図書館を利用することもあるが、松本市の施設よりも安曇野市の施設のほうが使いやすい。

市担当： アウトドアや美術館・博物館についてはどうか。

Aさん： 美術館や博物館が多いという感覚はあるが、安曇野市の良いところとまでは感じていない。

Cさん： 博物館や美術館はあまり行ったことがなく、良く分からない。電車を利用するとき、穂高の駅でバックを背負っている人を良く見かけるので、登山をする人が多くきてくれているのではないかと感じる。

Dさん： 水がきれいでおいしいのは地域の魅力。水がきれいなので野菜が美味しい。アウトドアが楽しめるという感覚はあまりない。

Eさん： 朝にみる霧がかかった山の景色等が綺麗で、自然が豊かなところが安曇野市の良いところだと思う。また、明科の水産試験場を小学校の時に見学したことがあるが、信州サーモンも安曇野市の魅力だと思う。

Eさん： 博物館・美術館については、明科にはそれほど博物館・美術館が多いという印象は無くあまりピンとこない。アウトドアについては、昔カヌーを見たことがあるが、安曇野市がアウトドア・スポーツのまちであるという認識はあまりない。

Bさん： 自然が安曇野市の魅力だと思う。安曇野市からみえる景色を写真に撮っている人を良く見かける。また、大王わさび農場の観光客や登山・自転車を楽しみに市外・県外から来る観光客が多く、自然は安曇野市にとって重要だと思う。朝見る山・景色が綺麗だと感じる。

Bさん： 市内に博物館・美術館が多いという感覚はあるが行ったことがなく良く分からない。アウトドアに関しては、市民というより観光客が楽しむものという認識であり、これも良く分からない。

④ 安曇野市の良くないところ

Bさん： 明科地域に住んでいるが、公共交通が不便。子どもだから車が無くそう感じるころはあるが、歩き・自転車で行けるところにお店が無く、親に車を出してもらわないといけない。

Eさん： 買い物する場所が少なく、品揃えが少ない。また、明科地域には、街灯が少ない場所があり心配。

Dさん： 娯楽施設が少ないと小さいころから感じている。何か遊べる施設が欲しいというのは友達とも良く話す。現在住んでいる豊科地域では買い物について、特段不便を感じることはない。

Cさん： 公共交通が不便というのが良くないところの一番だと思う。電車が1時間に1本しかないというのがとにかく不便。さらに、学校の時間割は公共交通の時間を反映しているわけではないから、1時間に1本しかないと、乗れるか乗れないかぎりぎりの時間に駅に着くことがある。買物については、駅の近くに住んでいるかもしれないが、穂高は便利だと感じている。

Aさん： 三郷地域では、小中学生が勉強するスペースが足りないと思う。体育館の休憩スペースで勉強したこともある。買物については、比較的充実していると考えており、不便だと

は思っていない。

⑤ 安曇野市を「もどりたいまち」にするために必要なこと

- Aさん： 就職する時を考えると、都会の方が、会社数が多く就職しやすいと思う。地元で雇用があると良いと思う。
- Cさん： 公共交通が一番。松本市は6番線まであるし、塩尻市の駅は自動改札がある。そういう環境であれば、松本で仕事をして、行き来のしやすい塩尻市に住むことになると思う。かたや安曇野市は2番線までしかないし、基本無人駅。自動車がなければ暮らしていけないのかなと思う。
- Dさん： 将来自分に子どもが出来た時のことを考えると教育の情報発信をしてほしい。例えば高校では部活の紹介がHPでされているが、中学校については部活の情報があまり発信されていない。移住したいとか安曇野に戻りたいと思ったときに、子どもが特定のスポーツ（野球やサッカー）をやりたいという場合、情報がなく、いざ来てみたら人数が足りなくてできないということになれば困る親もいると思うため、情報を発信してほしい。
- Eさん： 最近は豪雨や台風による大雨が多く、現在住んでいる明科地域での生活に不安がある。安心して住めるように、防止・減災対策が重要だと思う。
- Bさん： 子どもができた時のことを考えると、災害や防犯対策が充実していると良いと思う。

■ ヒアリング結果

✓ 中学生の多くが「自然環境」を安曇野市の魅力として捉えている

ヒアリングからは、安曇野市から望む北アルプスの眺望等、自然環境を安曇野市の魅力と感じているとの意見が多くみられた。

✓ 公共交通の利便性についての意見が多くみられた

安曇野市の良くないところとして、公共交通の充実を課題視する意見が多くみられた。また、公共交通は、将来安曇野市外で暮らしたいとする主な理由となっていることに加え、安曇野市を「もどりたいまち」にするために必要なこととしても多く意見が寄せられた。

✓ 地域の現状を踏まえ、商業施設の充実や防災・減災に関する意見も

商業施設の充実等、買物環境についての意見では地域差がみられ、ヒアリングでは明科地域在住の中学生から、買い物が不便との意見があった。

また、明科地域在住の中学生からは、防災・減災の充実を望む声も目立った。

✓ 美術館・博物館、アウトドア・スポーツへの関心は現状ではそれほど高くない

安曇野市では、美術館・博物館の集積地である強みを生かし、文化芸術中核都市を目指した取り組みが進められているが、中学生へのヒアリングからは、美術館・博物館の多さを実感してはいるものの、これを安曇野市の魅力とまでは認識していないことがうかがえた。

自然環境を生かしたアウトドア・スポーツの活性化（アウトドア・スポーツの聖地化）についても同様で、アウトドア・スポーツ環境を安曇野市の魅力と認識しているといった意見は多くなかった。

文化芸術中核都市やアウトドア・スポーツの聖地を目指した取り組みを進める中で、市民にこれを周知する意味において、小・中学生が美術館・芸術館や市内で楽しめるアクティビティに親しみを持つことが出来る取組が求められると考えられる。

7. アウトドア関連事業者へのアンケート調査

■ ヒアリング実施概要

対象者	市内および安曇野市近隣のアウトドア関連事業者 42 社
調査実施期間	令和 4 年 9 月 29 日（木）～10 月 16 日（日）
調査方法	郵送による発送 WEB または FAX による回答
回収状況	送付数 42 回収数 15 回収率 35.7%

■ アンケート結果

- ① 貴社がアウトドア・スポーツに関する事業を展開するうえで、安曇野市が有する魅力・強み、また、課題や弱みは何だと思われますか。＜魅力・強み＞

【A 社】

環境的には恵まれていると思います。立地（交通面）、自然環境（山岳、河川、気候など）含めて。

日本の中心に位置しており、交通網も飛行場、JR、高速道路含め集客のためのインフラには恵まれている。

また、「安曇野」（アズミノ）というネーミングは爽やかな自然を感じさせる。

【B 社】

西側に雄大な北アルプス連峰がそびえ立つ中部山岳国立公園の山岳地帯があり、表銀座・パノラマ銀座と呼ばれる登山者に人気のコースとそれをつなぐ山々があり、東側に光城山や長峰山などの市民に愛される里山を有し、北アルプスを源とする多くの河川や湧水が安曇野平を潤す、自然豊かな安曇野が魅力となりえる。

【C 社】

安曇野の自然環境のフィールドを活かした多様なアウトドア・スポーツが行える

北アルプス山岳の登山・低山里山のトレッキングやパラグライダー・平地でのランニング、サイクリング・川でのキャニオニング、フィッシング、ラフティング、etc)

【D 社】

自然が豊かであること

アクセスが良いこと

多岐にわたる事業者が揃っていること

【E 社】

自然環境や豊かな水資源、土壌、長い歴史の中で培われてきた文化や慣習が強みだと思います。そしてその資源を生かしていくことで、今後のスポーツやアウトドア産業にとって、またそれだけではなく観光産業や、農業が一層の魅力になると思います。

アウトドア事業を展開するための自然環境を有している事が強みで、特産物を活かせばアウトドアに限定せず飲食業や宿泊業にも展開できるため、アウトドア産業やスポーツ産業を足掛かりとして、他の業種の展開の足掛かりとなりうると思います。

保有する自然環境が身近にある意味での地の利と、アウトドアやスポーツを積極的に行う姿勢が見える行政の方々が強みだと考えています。

【F 社】

他の地域にはない、山岳を含むアウトドアフィールド

【G 社】

アルプスの絶景とアルプスから湧く綺麗な水。これに合わせて綺麗な空気と積雪のない冬、暑さが少ない夏とオールシーズンでのスポーツに適した気候。

自転車にとっては上記の理由でとても良い。ロードもマウンテンバイクも走れるところがある。

【H 社】

北アルプスの玄関口でもあり、四季を通して様々な自然の恩恵を楽しめること

【I 社】

壮大な北アルプスの山々、美しい水、豊かな木々や土地、四季のメリハリ、守っていく人々

【J 社】

水、北アルプス

【K 社】

山がある！

【L 社】

豊かで美しい自然環境

【M 社】

景色、風景が四季折々に見えるところ

交通網の良さや安曇野といああドがブランド化しているところ

【N 社】

山、川、空、田園（道） 全てが思わずシャッターを切りたくなるような観光ロケーション

【O 社】

圧倒的な山岳・田園景観と自然環境、歴史風土

② 貴社がアウトドア・スポーツに関する事業を展開するうえで、安曇野市が有する魅力・強み、また、課題や弱みは何だと思われますか。＜課題・弱み＞

【A 社】

アウトドア・スポーツという範疇にどんなスポーツが入るかにも関係しますが、先ずスポーツ施設が少ない。施設としての環境が整備されておらず、公式大会を開催できる施設が無いに等しい。また、一番の問題がトイレ、洗面所、着替え施設などアメニティや必須である施設周辺の駐車場が殆ど整備されていない。国体、インターハイ、インカレ等の全国大会の誘致は難しい状況にあると思います。

また、全国大会等の誘致には宿泊施設等が近隣にある事が必須であり観光関連との連携も必要となります。他県のスポーツ施設等の見学も必要ではないかと思われます。

スポーツ施設（アメニティーも含め）の整備は観光産業への好影響は大きいと考えます。

全国大会、国際大会などが行われることにより、観光産業（宿泊・お土産・飲食関連等）の活性化にもなると予想されます。

また、地域全体で盛り上げていこうという雰囲気無く、自分事になっていないのではと感じます。地域全体で支援するような仕掛けも必要になると思います。

スポーツ施設は地域住民のために整備されることはもちろんであるが、そこをどのように地域の発展に使えるかと考えるのも重要なことではないかと考えます。使用、利用されてこそ施設が生きることであり、完璧な施設を整備することで利用価値が上がり、様々なスポーツの大会を誘致し、地域の活性化にもつながります。

【B社】

松本や白馬など信州を代表する観光地に隣接しており通過地点になってしまっている。またユーザーには登山以外のアウトドアを楽しむエリアとは認識されていない。安曇野というブランドイメージに「アウトドア・スポーツ」が付随されていない。ウィンタースポーツがまったくもって弱い。

【C社】

安曇野でアウトドア・スポーツの『何ができる』『どこでできる』等の情報発信不足

【D社】

地元住民の方の理解が十分得られていない、持っている魅力を認知されていない
異業者間の横のつながりが無い

【E社】

自然環境が身近にあり、協力したいという声が挙がる一方で、公共交通機関の整備や配置について、多く課題があると感じています。多くの住民は自力で移動が出来る自家用車を所有している一方、市により多くの収益をもたらす観光客やスポーツ、アウトドア参加者への配慮が不足していると思います。

アウトドアやスポーツ産業をはじめとした、安曇野市に新規参入を希望する企業が、より参入しやすくする意味でも、特定の企業の応援の前段階としての公共交通機関の整備と、住民がより良い暮らしをするための配慮が必要だと思います。

加えて、子どものいる家庭が、多くのスポーツやアウトドアイベントに参加し易い環境を作り上げることが、将来の安曇野の移住者や旅行者に変わる可能性を秘めていると思います。家族で参加をしやすい企画があることが、現在だけではなく未来の市への投資であると考えています。

【F社】

田園、ワサビ畑などの自然はある程度認知されているが、アウトドアとしては、具体的にイメージすることが弱いように感じます。（もちろん燕岳、常念岳といった山登りは登山者には知られていますが）

「安曇野に行けばこれができる！」といったものを打ち出して、一般的に認知してもらえればいいのかと思います。

山岳関係者としての意見なのですが、自治体として山小屋を補助してもらい、設備や登山道等の整備。

燕岳に関しては、シャクナゲ荘(宮代)～中房までは公共機関を使ってもらい、環境に配慮した登山を行えばいいのではないかと考えます。中房の登山者駐車場は有料(高額・予約制)とかでもいいかもしれません。

【G 社】

宿泊施設が少ない、大規模な駐車場がない、
アウトドア・スポーツとしてのイメージがない。

自転車も AACR で 120 キロのスタート地点となっているが宿泊施設が分かりにくく問い合わせをいただく。街の拠点がどこかわからない。駅がローカルなので仕方がないが、人が集まりにくい。街全体のイメージとインフラが整うと良いと思います。

マウンテンバイクのフィールドとしてはもっと自由に走れるところがあった方が良い。今年に入って都内から移住組のマウンテンバイカーは2家族池田となった。それは走りやすいというのが理由でした。

【H 社】

モノコトができる体験できる施設が旅行者には用意されている印象ですが、アウトドアユーザーにとっては白馬や大町のアクティビティの豊富さがあるため経由地としての機能以外で、ユーザーも満足するフィールド、場所があれば嬉しいと思います。

【I 社】

アウトドア・スポーツを掲げて気軽に利用できる場所が少ない。又は事業規模が小さい。広い土地でいろいろやれるところが少ない。

【J 社】

土地柄アウトドア・スポーツに向いていない (今現在)

【K 社】

特に思いあたらない！

【L 社】

近年、開発等により昔ながらの美しい景観が失われている

【M 社】

目玉コンテンツの不足
各コンテンツの連動性（横のつながりの導き等）

【N 社】

市民および市全体の方向性（観光コンセプトとまちづくり）が不明確、民と公（観光協会や商工会、教育行政含む）の連携が取れていない

特に商工観光行政と建設行政について、アウトドア事業者と連携不足であり、ハード面の問題が多い

【O 社】

分散していて「これ！」というストロングポイントがない。

宿泊施設と市街地が連動していないため、泊まって街中で一杯飲む、となりにくい。

③ 日頃、貴社が事業を展開する中で、どのようなことが課題となっていますか。

【A 社】

様々なスポーツの全国大会、北信越大会などの候補地にもリストアップされないことが問題である。

【B 社】

各事業者が個別に活動しており、安曇野アウトドアを One Team で盛り上げる機運がなく、それを束ねる組織、または指導者がいない。よって総合的なプロモーションがなされていない。また、コンテンツのソフトハード面が整えられても、肝心のガイド人材が不足している。ハード整備も遅れており、既存の既得権益者の意識改革、意識共有ができていない。

【C 社】

アウトドア・スポーツを実施するためのガイドやトレーナー不足。(情報も含め)

【D 社】

フィールドの整備

河川を利用したアクティビティを行っているが、外部から遊びに来た方への危険箇所やローカルルール・マナー等の周知

【E 社】

コロナ禍以前の様な、より多くの登山者に泊まって頂くことで得られる利益は見込めなくなってきました。加えて、節約することが流行になりつつある若者層の中で、いかに楽しんでもらい、サービスを購入して頂くか、そして将来のリピーターとなってもらうかが課題となっています。

また、近年の駐車場事故の多発により、連休などの繁忙期に自家用車で登山口まで向かうことの難しさ、コロナ感染を忌避するために自家用車で登山口まで来ることは、SDGs を提唱する世の中とは逆行してしまう上に、このままでは事故による怪我人や死亡者がでてしまうのではないかと危惧しています。

自然環境を相手にした事業であるため、今まで以上に自然との共生を目指しつつも、一方でそれによって登山者が窮屈な思いをしない方法を考え実行していくことが課題となっています。

公共交通機関の整理を安曇野市にお願いし続けることも課題の一つであると考えています。

【F 社】

いかに製品の良さを、広くユーザー知ってもらえるか？

全国的なメーカー知名度の低さ

【G 社】

認知と集客に困っています。

【H 社】

課題は人材の不足があります。

【I 社】

コロナ禍でアウトドア人気は高まっているが、量販店に利用者は行ってしまうので、顧客の獲得が難しい。

【J社】

アウトドア・サービス業は、リスクマネジメントであり、何かあれば人が死ぬということを徹底するため、社員やアルバイトの教育が大変です

【K社】

商品がない！

【L社】

美しい景観が失われた場所へお客様を案内できない

【M社】

閑散期（4-6月、9-11月）の集客対策、既存のアウトドア事業以外の事業展開も視野に入れつつ通年を通した売り上げの確保

【N社】

後継者の確保（特殊な季節労働）

他業者や市、県との連携が不十分（環境、「せせらぎの小径」、地元の人へ安曇野の川のよさを伝える、変わりゆく観光ニーズへの対応、アウトドアブームが加速する中での事故防止対策など）

【O社】

スポーツイベントを数多く開催しているが、多くは松本市への宿泊となっている。
安曇野市への経済波及効果が少ない。

④ アウトドア・スポーツの振興に向けて、地域一体で取り組むにあたり、どのような取り組みが必要であるかを教えてください。

【A社】

まずはハード面の整備、国際大会級のイベントができるようにすることが第一。

それにより各種スポーツ団体への働きかけが可能になります。

大会規模により旅行会社や宿泊施設の協力も必要になります。

また、地域住民としても世界から、全国から選手に限らず、関係者、応援に来る家族などとの交流も盛んにおこなわれることになります。

【B社】

安曇野のアウトドア・スポーツのブランディングを含めて、プラットフォーム的な組織が必要で、その受け皿にユーザーと事業者をつなげていく必要がある。また安曇野ならではのアウトドア・スポーツコンテンツの造成とプロモーションを仕掛けていく必要がある。

【C社】

（記載なし）

【D社】

地域一体で取り組むといっても、まず住民の方からの理解が必要です。

それにはまず安曇野市からしっかりとアウトドア・スポーツ（事業者）を認知していただき、可能な範囲で構いませんので発信などをお願いしたいと思います。振興をすすめるならば、設問にある「プロモーション、事業者連携、旅行商品、ガイド等の人材育成、ハード整備、イベント」

などは必ず必要になってくると思います。

【E 社】

地元住民自然環境を相手にした事業は他業種以上に単体では成り立たず、地域住民や賛同者の理解と協力なくして継続は難しいと感じています。登山道の草刈りや道の整備一つをとっても 33 キロの長い距離を一会社だけで管理することには限界があり、行政や地域の方の理解があり、協力体制が整い、県外の賛同者の応援があって初めて出来ることが多いと実感を含めて強く感じています。

同業種との連携に加え、他業種への理解や相互協力があれば、地域全体を盛り上げるための一助になると思います。

まずは地元住民がより良い暮らしを続けるため、公共交通機関をはじめとした子育て世代の支援や、情報発信などのハード面に整備が最優先かと思います。

その上で地域住民を地元の様々な業種を巻き込んだ事業展開を目指すことが確実ではないかと考えています。

【F 社】

安曇野に来た時に、できることの明確なコンテンツの提示

それをスマホのアプリで、一括して計画や利用しやすくする(観光事業者の登録)登録している事業者もそこへアクセスし、お得な情報をアップさせられるとか。情報を統括することで、観光客が利用しやすく、また必要な情報へアクセスしやすくできるように。(観光ガイドについては、アプリでいくらかでも補完できると思います。)

池田町などは、町が公認のマウンテンバイクコースがあったりします。既存の山水戸を使って、安曇野を周遊できるトレイルランニングコースや、マウンテンバイクコースなど整備して、いずれ大会を行うとか？

【G 社】

うどんと言えば香川、サッカーは静岡、都会といえば東京。ではアウトドア・スポーツとえば？？まだないんです。一般的には。自転車、登山、カヌーを軸に今それを打ち出せば活気につながりますよ。

【H 社】

プロモーション

媒体訴求、特産品や安曇野の食材や技術を活かしたものづくり

【I 社】

ハード整備 広いキャンプ場やアウトドア施設を増やす。コテージやグランピングでキャンプより気軽に自然を楽しんでもらえるような場所づくりをするなど。

【J 社】

アウトドア・スポーツを推進するにあたり、地域の人たちに知識・理解がないとできない。巻き込む方々の参加。教育が不可欠かな。

【K 社】

プロモーション、事業者連携

【L社】

漫画「ゆるキャン△」や芸人ヒロシさんのキャンプ動画に取り上げてもらえばよい

【M社】

プロモーション SNS等の露出の時代のため、地域振興には不可欠

ガイドの人材育成（今後はハード面より重要、海外人材にも目を向けた対策が必要）

イベント（人の集まるところに人は集まる。きっかけづくりと敷居を下げること）

【N社】

単に観光・スポーツ振興だけでなく、環境、教育、まちづくりなどと絡め、未来を見据えて取り組んでいくことが重要

【O社】

誰にでもわかる拠点施設が欲しい！安曇野におけるアウトドアスポーツの玄関&拠点施設

- ⑤ 貴社の今後の事業展開の中で、安曇野市と連携して進めて行きたいと考えているものや、これに関連して安曇野市へ要望したいことがありましたら教えてください。

【A社】

安曇野らしい、安曇野のローケーション（アルプス山麓）を利用したスポーツ大会（MTB、あずみ野ハーフマラソン）の継続と充実化。

MTB のコースを更に拡大、整備し大規模な大会が出来るように環境整備をすることが望まれます。

コロナ禍ということもあり、自転車はブームで更に拡大傾向にあると思われます。

また、「あずみ野ハーフマラソン」の延長上に「あずみ野トライアスロン」（スイミングを別種目に変更し、あずみ野らしいトライアスロン）も考えられます。

コースの整備、アメニティの整備、駐車場の整備は必要ですが、特に大規模な施設は必要なく、アルプス山麓の好環境を上手く利用してできるのではないかと考えます。

北アルプスを観ながらのスポーツは安曇野ならではのあり、他では味わえない魅力だとも思います。

【B社】

安曇野で継続的に活動していける若いガイドの育成とサポート（スキルアップ・ホスピタリティマインド形成・起業サポート・副業斡旋）

BtoC、BtoB のプラットフォーム業務とプロモーション業務の構築

行政が推進する観光振興、地域活性化事業との連携連動できるような関係性の構築

行政の観光振興ビジョンを実現するために活動できる観光プラットフォーム作り

アウトドア・スポーツの拠点作り。事業者とユーザーの接点、総合的な情報発信基地として例えば旧アートヒルズミュージアムの観光拠点化（観光情報センター、観光物産センター、観光協会、観光課、移住定住促進課、コンビニやフードコートなど複合施設としての拠点化）。

長峰山・光城山の通年利用化。弊社が主催する絶景ツアーは安曇野の新たな観光コンテンツとして、少しずつ認知と共に客足を伸ばしているが、冬季利用の需要があるのに対応できない。この時期は多くの市民も山頂で過ごす時間を楽しんでいるのに、トイレや登山道、車道など環境整備が整っていない。

【C社】

アウトドア・スポーツの誘致は必要だと考えますが、宿泊（当ホテル）の目線からすると、高校や大学の合宿の場合、グリーンシーズンの繁忙期等では宿泊の料金（単価）が著しく減少されることが懸念されます。

誘致する際には、【個人】【学生】または【企業（チームビルド）】をしっかりと棲み分けし、一緒にたにしないよう、カテゴライズを行い、それぞれに対してマーケティングを行っていただく方向性を望みます。

【D社】

市民対象の体験会等の呼びかけ

市内小中学生を対象とした、学校授業（例えば理科や社会）を絡めた体験授業形式の開催
公的土地や施設等の利用許可

私たちに限らず個々の事業者で誘客を行うには限界もありますし、いらっしゃるお客様にも利便性が良いとは言えません。たとえば「修学旅行誘致協議会」というような集まりを構成し、宿泊業や農業・飲食業・観光業をはじめとした異業種間で連携したパッケージ商品を作り旅行会社等にアプローチできればと考えています。

単体の事業者が声掛けをするには敷居が高いので、安曇野市が主導になっていただけないかと思います。

【E社】

現在、登山道整備に携わってる地元の方の中で営まれている業種と、山小屋のコラボ商品の展開、ボランティアの皆様の情報発信などを行っていますが、一企業の情報発信の力には限度があり、公的に目にする事の難しさを感じています。

そういった中で、広く周知してもらえるプラットフォームがあればいいなと思います。

また安曇野市の企画するイベントなどに、企業が参加しやすく、その企画運営の募集をより早く知ることが出来たらと思います。

【F社】

アウトドアイベントへの協力

趣旨からは外れますが、山岳テントメーカーであるので、訓練も兼ねて、災害避難時のテントを使った宿泊体験など

【G社】

ロードバイクとマウンテンバイクの走りやすい環境創造！

【H社】

今後とも継続的に発展に向けて微力ではありますが精進してまいりたいです。

主に街づくりでアウトドアユーザーが移住するにあたって何かサポートできれば幸いです。

【I 社】

アウトドア商品も多様化しており、スポーツイベント等で使ってもらえるような商品の提案を行っていきたい。

【J 社】

地域の方たちに対しての最初の窓口

【K 社】

アウトドア・スポーツのイベント連携

【L 社】

自転車の交通法規の教育と周知

【M 社】

互いに相乗効果が出るものであれば積極的に取り組みたいです。欲をいえば、閑散期対策として、秋～春にかけてのイベントを開催できたらなおよいです。

【N 社】

何をもってアウトドアの聖地としたいのか、だれのため、何のため、どうあるための構想かそれらについて議論を交わしたいです

【O 社】

アウトドアスポーツの玄関&拠点施設の計画～運営について、提案させていただきたい

⑥ その他 市への提案、要望等ありましたらご記入ください。

【A 社】

(記載なし)

【B 社】

(記載なし)

【C 社】

(記載なし)

【D 社】

書面では伝えきれないことやニュアンスがたくさんあります。ぜひ一度お話しする機会を設けていただければと思います。

【E 社】

今回のこのようなアンケートのように、より良い意見を集められるようなプラットフォームと、その意見に対しての実行について、多くの人の目に触れる場所があればよいなと思っております。

【F 社】

アウトドア活動とはとはこととなりますが、
テレワークが進んだいま、別荘だけでなく安曇野の空き家などを、テレワーカーに安く貸し出し、安曇野に実際住んでもらい、I ターンのきっかけづくり。
そこで新たなアウトドアとふれあい、発信してもらうことにつながるのではないのでしょうか？

【G 社】

一緒に盛り上げて行きましょう！

【H 社】

特にございません。

【I 社】

(記載なし)

【J 社】

何をもってアウトドア・スポーツの聖地にしたいのか、全くみえないので困った
まつもと冬割キャンペーンのような企画が近隣で出されると差別化されます、逆手にとって何かできるといいのですが

【K 社】

なし

【L 社】

昔からあるものを生かして欲しい、休耕田の草を刈って水を入れていただきたい

【M 社】

(記載なし)

【N 社】

せせらぎの小径の整備
ストーリーと象徴が必要
学校登山だけでなく、学校ラフティングや学校サイクリングなどの選択肢を
市内に水の駅を設置（日陰、トイレ、給水）
安曇野市立大学の設置など

【O 社】

1年を通して安曇野に訪れてもらうためにも、「世界中から注目されるインパクトのあるスポーツイベント」ぜひ開催したいです！

第2次安曇野市総合計画後期基本計画
市民ヒアリング報告書

令和4年10月
安曇野市